

【準備物】

- (1)M120
- (2)水（水道水か飲料水） ※有機物不純物や酸性物質を含む水はセメントの水和を阻害するため適しません
- (3)プライマー（必要な場合）※市販品で可
- (4)練り混ぜ容器（トロ箱、ペール缶）
- (5)ミキサー（モルタルミキサー、ハンドミキサー）
- (6)水ため容器（ドラム缶、バケツ）
- (7)計量容器（小バケツ）
- (8)鍬 ※その他は工法と工事規模に応じた工具、機械を用意します

【前工程】

1. 下地処理

下地がコンクリートやモルタルの場合は下地表面のレイタンスと汚れを、ワイヤーブラシ等を用いて完全に除去し、掃除します。

2. 水湿し

- ・下地のコンクリートやモルタルが吸水しなくなるまで十分に水湿しを行ってください。
- ・水湿しの代わりにプライマーを塗布する場合は、市販プライマー用樹脂（固形分45%）を水で3～4倍に希釈し、刷毛で塗布しておきます。この時、プライマーが完全に乾いてから本製品を塗り付けないとプライマーの効果が出ません。

【練り混ぜ】

- ・モルタルミキサーで練り混ぜる場合は、本製品をモルタルミキサーに入れ、ミキサーを回転させながら清浄な水を所定量加え、希望する軟らかさになる様に本製品と水の量を調整してむら無く練り混ぜます。
- ・ハンドミキサーで練り混ぜる場合は、練り混ぜ容器に所定量の清浄な水を入れ、本製品の半分を入れて練り混ぜます。よく練り混ぜたら本製品の残りの半分を入れ、さらによく練り混ぜます。

※水以外の物を加える場合、基本的にはセメント用混和材（剤）であれば差し支えありませんが、事前に試験するか、弊社と混和材（剤）メーカーに問い合わせた上でお使いください。

【施工】（工法別）

●塗り付け

始めに鏝圧を掛けてシゴキ塗りし、追っかけて所定の厚さに塗り付けます。

一度に塗り付ける厚さは、壁や天井は7～10mm程度とし、それ以上の厚さに塗る場合は何回かに分けて塗り付けます。中塗りは櫛目を搔いておき、仕上げ塗りは定規等を用いて平面を出し、鏝で押さえて仕上げます。土間や床は薄く塗ると剥離するので、一度に30mm以上塗って仕上げます。

●吹付け

始めに7～10mm程度の厚さに下吹きし、強度が出る迄1～3日養生します。

次に所定の厚さになるまで付け送りし、仕上げは鏝で押さえます。

●パッド

モルタルを団子が握れる程度の硬さに練ります。次に、塗り付け用に練り混ぜたモルタルをシゴキ塗りし、締まり具合を見計らってパッド用に練ったモルタルを詰め込みます。仕上げは鏝で押さえて仕上げますが、表面の7～10mm程度を塗り付けて仕上げるときれいに仕上がります。

●注 入

練り混ぜたモルタルの比重は2程度有ります。施工ヶ所の型枠が施工中や施工後にバラない様に強固に組み、漏れも無い様にシールしておきます。流し込みに適した施工軟度（コンシステンシー）に練り混ぜたモルタルを流し込み、適度に締まったら天端を鏝で押さえて仕上げます。

【養生】

施工が完了したら乾燥や凍結を防止し、適温・適湿な状態で1週間以上養生します。